

**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS**

17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD

価値ある環境を未来に

「包括的な事業展開を図り、インフラ整備によって社会に貢献するCM型建設コンサルタントエンジニア集団」

わたしたち 近代設計 は、グループとして掲げる理念の下、建設コンサルタントとしての使命を果たし、企業活動を通じて、2015年9月の国連サミットで採択されたSDGs 17の目標の達成に貢献します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



経営理念

わたしたちは高度の技術力を誇る、健康で豊かな頭脳集団として、美しい国土の創造に貢献します。

経営ビジョン

- * 建設マネジメント(CM)の総合的かつ高度な技術を保持するための、設計と発注者支援業務の技術者のローテーション化を図り、CMに特化した建設コンサルタント。
- * 道路に係る橋梁、トンネル等の保全技術(点検・調査、診断、補修・補強設計)のトップランナー。
- * 無電柱化、自転車道、占用管理等の個別技術を含む地域に適合した道路空間再生に係る技術の構築、高度化を図り、同分野におけるトップランナー。

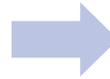


事業領域

・建設コンサルタント領域・インフラマネジメント領域・事業開発領域

< 3つのコア・コンピタンス >

- * 環境(無電柱化)
- * 行政支援(発注者支援、PPP)
- * 防災・保全(耐震診断、補強設計)



< 5つの重点分野 >

- * 環境・エネルギー
- * インフラマネジメント
- * 自然災害リスク軽減
- * 情報通信
- * 都市・地域再生



重要課題

< E:環境 >

- * 環境負荷の軽減に配慮した事業の推進
- * 都市景観の改善

< S:社会 >

- * 多様な人材が能力を発揮できる職場の実現
- * 持続可能でレジリエントなインフラ整備の推進

< G:ガバナンス >

- * 強固なガバナンス体制の構築

重要課題	当社及びグループの重要課題と関連するSDGs
E(環境)	<p style="text-align: center;">環境負荷の軽減に配慮した事業の推進 再生可能エネルギーの普及を支援し、循環型社会の形成に貢献する</p> <div style="text-align: center;">  </div>
S(社会)	<p style="text-align: center;">多様な人材が能力を発揮できる職場の実現 人財開発・育成を積極的に行い、働きやすく、働きがいがある職場をつくる</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div data-bbox="600 588 739 722">  </div> <div data-bbox="797 588 937 722">  </div> <div data-bbox="994 588 1134 722">  </div> <div data-bbox="1192 588 1331 722">  </div> </div> <p style="text-align: center;">持続可能でレジリエントなインフラ整備の推進 良質なインフラ整備や維持管理を通して、国内外の地域の生活環境向上や活性化に貢献する</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div data-bbox="797 892 937 1026">  </div> <div data-bbox="994 892 1134 1026">  </div> </div>
G(統制)	<p style="text-align: center;">持続可能性を組み込んだガバナンスの構築 コンプライアンスやリスク管理を重視したガバナンス体制を整備し、ステークホルダーとの信頼関係を強化する</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div data-bbox="797 1195 937 1329">  </div> <div data-bbox="994 1195 1134 1329">  </div> </div>

価値ある環境を未来に

「包括的な事業展開を図り、インフラ整備によって社会に貢献するCM型建設コンサルタントエンジニア集団」



KINDAI Way (キンダイウェイ)とは、近代設計の行動規範の原点とその方向性を現すものです。近代設計は、そのロゴマークにもあるように「人の近代」を目標に、協力会社や社員の“活力”によって“燃える集団”となり、地球環境との“調和”を創造し、常に頭脳集団としての“先進的な技術力”を養うCM型建設コンサルタントエンジニア集団を目指します。

当社は、このKINDAI Wayの実践がやがては社会との共有価値を創造する(CSV；Creating Shared Value)こととなり、ひいてはSDGs(Sustainable Development Goals)の目標達成につながるものと考えております。



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

Philosophy

わたしたちは高度の技術力を誇る、健康で豊かな頭脳集団として、美しい国土の創造に貢献します。

Mission

道路(まちづくり)の建設から管理・運営に至る一連の事業において技術コンサルタントとして総合的に事業展開を図り、時代とともに変化するインフラ整備へのあり方や社会のニーズに的確に応え、持続的な成長と企業価値の向上を目指します。

そのために設計技術を基本に発注者支援(CM、PPP、行政支援等)及び保全(点検調査、診断、補修・補強設計)技術の高度化を図り、以下の“3つのビジョン”を目指します。

Vision

- * 建設マネジメント(CM)の総合的かつ高度な技術を保持するための、設計と発注者支援業務の技術者のローテーション化を図り、CMに特化した建設コンサルタント。
- * 道路に係る橋梁、トンネル等の保全技術(点検・調査、診断、補修・補強設計)のトップランナー。
- * 無電柱化、自転車道、占用管理等の個別技術を含む地域に適合した道路空間再生に係る技術の構築、高度化を図り、同分野におけるトップランナー。

Value

わたしたちは建設コンサルタントに求められる以下の“6つの能力”を養い、技術価値を社会に提供し続けます。

- * 研究能力
- * 開発能力
- * 設計能力
- * 施工能力
- * 調整能力
- * 意思決定能力

■SDGsにおける近代設計のCSV (Creating Shared Value; 共有価値の創造) 経営



■PRIに基づくESG投資



PRI(United Nations Principle for Responsible Investment;国連責任投資原則)

1. 私たちは、投資分析と意思決定のプロセスにESG課題を組み込みます。
2. 私たちは、活動的な株式所有者になり、株式の所有方針と株式の所有慣習にESG課題を組み入れます。
3. 私たちは、投資対象の主体に対してESG課題について適切に開示を求めます。
4. 私たちは、資産運用業界において本原則が受け入れられ、実行に移されるように働きかけを行います。
5. 私たちは、本原則を実行する際の効果を高めるために、協働します。
6. 私たちは、本原則の実行に関する活動状況や進捗状況に関して報告開示します。



ESG投資

環境 (Environment)



社会 (Social)



統治 (Governance)



お客様



協力会社



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

■SDGsへの取り組みの一例(ex; Initiatives for the SDGs)



In our company, your immediate boss and I entrust jobs to the staff who are qualified to do them.

I believe this policy brings happiness to you as well as “KINDAI” as a whole. And also, at the same time, it prompts us to have great senses of responsibility and obligation.

That is why, we, Construction Consultants, are required to act as a good corporate citizen along with the spirit of “noblesse oblige”.

CEO Shimada “New Year's Address” (Jan 7, 2019)

当社では、みなさんの上司も私も「できる人にできる事を」任せています。それが、会社にとっても、本人にとっても幸せなことなのです。同時に、そこには大いなる責任と義務が伴います。だからこそ、私たち建設コンサルタントには、よき企業市民として“ノブレス・オブリッジ”に基づいて行動することが求められています。

出典：代表取締役社長 島田芳久「平成31年 年頭所感」より一部を引用（2019年1月7日）

※注：noblesse oblige（ノブレス・オブリッジ）とは、無私の行動を促す不文律であり、身分の高い人（財力、権力、社会的地位のある人）ほどそれに伴う大きな義務が生じることを意味する。

■SDGsにおける近代設計のBSC(Balanced Score Card)



財務の視点

売上高50億円（～2024年）
 受注高42億円以上かつ売上高42億円以上
 （≒発注者支援21億円+設計21億円）
 営業利益率4%維持向上（～2024年）
 トップシェアの維持（無電柱化関連業務）



顧客の視点

CM型 建設コンサルタントエンジニア集団
 品質保持 ISO-9001
 インフラ整備
 無電柱化
 電線共同溝設計
 交差点改良
 自転車レーン
 建造物の耐震診断、補強設計
 建造物の長寿命化



社内プロセスの視点

CSV（社会との共有価値の創造）
 国連SDGsへの取り組み
 ERM（企業リスク管理）
 規程・マニュアルの適宜改訂/研修実施
 ISMS（情報セキュリティ・マネジメント・システム）導入
 発注者支援と設計のローテーション化
 働き方改革
 ワークライフ・バランス/テレ・ワーク
 女性の増員 30%以上UP（～2024年）



学習と成長の視点

技術力の流出・空洞化の防止
 離職率ゼロを目指す（～2024年）
 技術系資格の取得支援
 CPD単位 年間50単位以上取得
 資格取得支援講座 年6回以上開催
 「技術士」模擬試験の採点/添削/指導
 「技報」の発刊
 英会話教室の開講（毎週月・火曜17:30～）
 社員親睦会（せっかち会）



2030年に向けて
 世界が合意した
 「持続可能な開発目標」です

■KPI(Key Performance Indicator;主要業績評価指標)

	<h2>保健</h2>		<h2>エネルギー</h2>		<h2>持続可能な都市</h2>
<h3>目標</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ①安全衛生活動の運営 ②ワークライフ・バランスの促進 	<h3>目標</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ①メンテナンス・サイクルの継続 ②-1. 3R, Reduce 省エネ -2. 3R, Reuse 再利用 -3. 3R, Recycle 再循環 	<h3>目標</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ①都市景観改善(無電柱化の推進) ②建物の耐震診断 →メンテナンス・サイクルの継続 ③建物の長寿命化 →メンテナンス・サイクルの継続
<h3>KPI</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ①-1.原則、毎月1回「安全衛生委員会」開催 -2.原則、毎月1回「衛生管理者」による職場巡視 -3.年1回「ストレスチェック」実施 ②有給休暇所得率25.1%(2018年)から50%に向上 	<h3>KPI</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ①「SDGs⑨、⑩」と共通 ②-1. ケールビズを10年以上継続(通算15年以上) -2.再生紙利用からペーパーレス化を10年以上継続 -3.コピー用紙に「植林木紙」を5年以上継続起用 再生骨材(コンクリート殻、アス殻)の利用計画の実施 	<h3>KPI</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ①「SDGs⑨」と共通 ②「SDGs⑩」と共通 ③「SDGs⑨」と共通
	<h2>教育</h2>		<h2>経済成長と雇用</h2>		<h2>平和</h2>
<h3>目標</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ①土木工学の研究発表 ②技術者の継続教育(CPD) ③資格取得支援 	<h3>目標</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ①売上高(受注額)の向上 ②雇用の創出(従業員数の向上) 	<h3>目標</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ①CSV経営(社会との共有価値を創造する経営) ②ERM(企業リスク管理)
<h3>KPI</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ①「技報」発刊 ②CPD単位を年間50単位以上取得 ③技術系の資格取得支援講座を年6回以上実施 	<h3>KPI</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ①-1.2025年5月期までに売上高50億円達成(52期トップマネジメントからの指示) -2.営業利益率4%以上(52期トップマネジメントからの指示) ②従業員数を現在より15%増員 	<h3>KPI</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ①技術の流出・空洞化を防ぐ→離職率0を目指す(第4次中期経営計画) ②-1.「反社会的勢力対応マニュアル」に基づき、講習を定期受講 -2.「リスク管理マニュアル」を定期更新 年1回実施
	<h2>ジェンダー</h2>		<h2>インフラ、産業化、イノベーション</h2>		<h2>パートナーシップ</h2>
<h3>目標</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ①女性の増員、職域拡大、育成等 	<h3>目標</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ①無電柱化(関連業務)の推進 ②発注者支援業務の拡大 ③橋梁設計業務の拡大 	<h3>目標</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ①技術継承の実践 ②協力会社との協働による品質の保持 ③品質/業務効率/業務内容評価の向上
<h3>KPI</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ①2024年までに、女性従業員を現在より30%増員 	<h3>KPI</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ①無電柱化(関連業務)におけるトップシェア(受注件数)の維持 ②発注者支援業務12.5億円から22.5億円に拡大(第4次中期経営計画) ③橋梁設計業務3億円から4億円に拡大(第4次中期経営計画) 	<h3>KPI</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ①技術士の増産(≒「SDGs④」と共通) ②ISO-9001の継続認証 ③ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)を2019年秋までに、導入